

多発性骨髄腫と類似疾患の統計

2009年7月27日

本資料は、国立がんセンターがん対策情報センター(<http://ganjoho.ncc.go.jp/>)が公開しているがん統計データから、多発性骨髄腫と類似疾患のデータをまとめたものである。がん統計データでは ICD10 国際疾病分類第 10 版 (2003 年改訂) が採用されていて、この中の C88 と C90 が「多発性骨髄腫と類似疾患」として集計されている。

C88 悪性免疫増殖性疾患

- C88.0 ワルデンストレ - ムマクログロブリン血症
- C88.1 アルファH<重>鎖病
- C88.2 ガンマH<重>鎖病
- C88.3 免疫増殖性小腸疾患
- C88.7 その他の悪性免疫増殖性疾患
- C88.9 悪性免疫増殖性疾患，詳細不明

C90 多発性骨髄腫及び悪性形質細胞性新生物

- C90.0 多発性骨髄腫
- C90.1 形質細胞白血病
- C90.2 形質細胞腫，髄外性

最新データ

2007年の死亡者数 = 4,021人、祖死亡率 = 3.19人、年齢調節死亡率 = 1.53人

2003年の罹患数 = 4,485人、祖罹患率 = 3.51人、年齢調節罹患率 = 2.02人

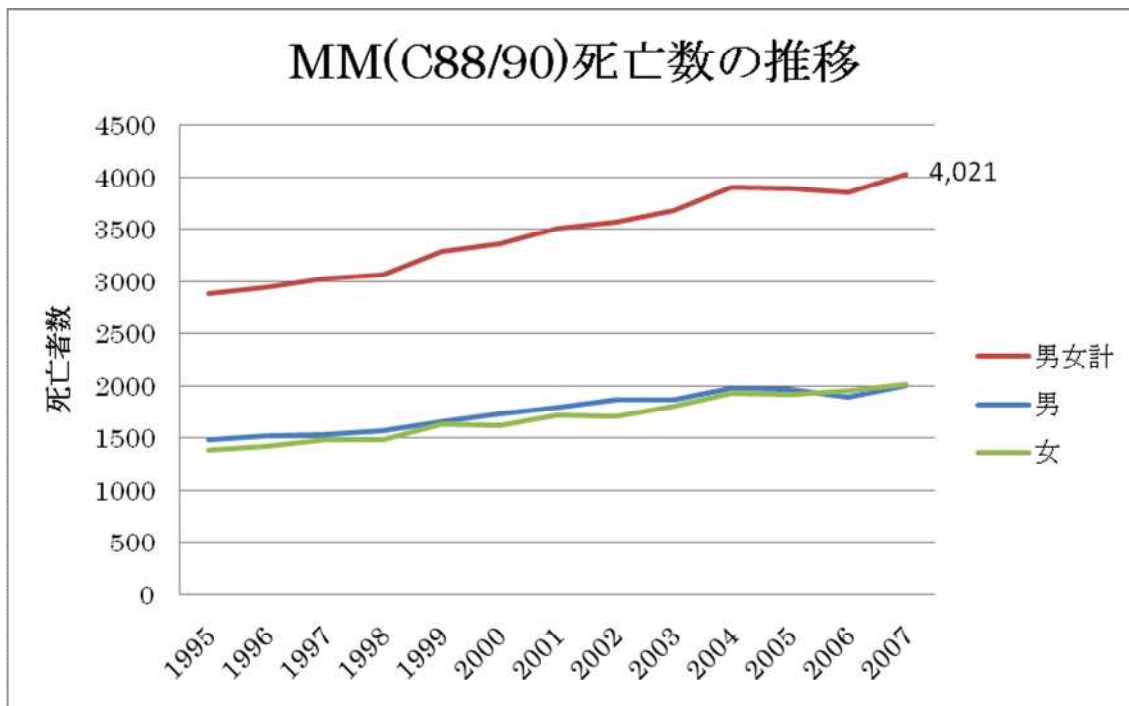
(死亡率罹患率は、10万人当たり)

1993～96年診断例の5年相対生存率

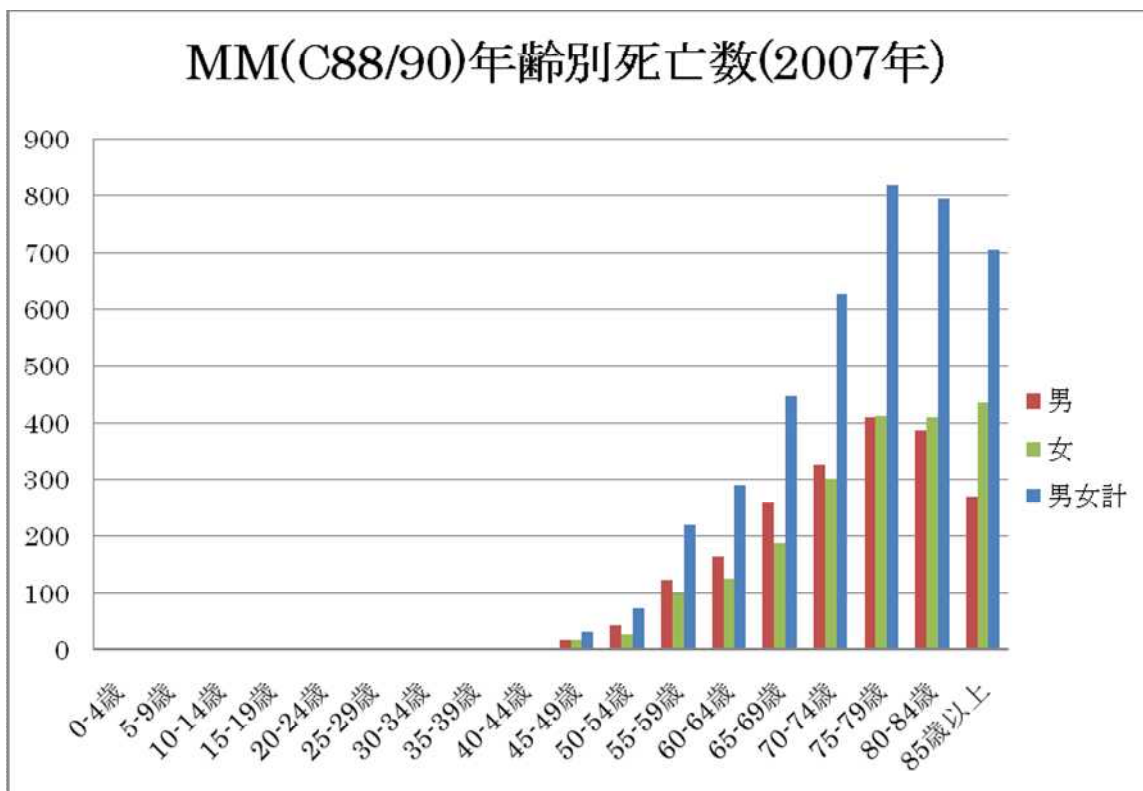
解析対象	項目	リンパ腫	多発性 骨髄腫	白血病
補充届出患者を含む	対象者数	4,720	1,070	3,351
	相対生存率	43.7	25	28.1
	標準誤差	0.8	1.5	0.8
補充届出患者を除く	対象者数	4,302	847	2,935
	相対生存率	47.8	29.9	31.5
	標準誤差	0.8	1.7	0.9

* 選択地域: (1)登録精度が罹患数・率全国推計の基準を満たす、かつ、(2)住民票照会実施で不明率が5%未満あるいは全死亡照会実施を満たす7登録(宮城、山形、新潟、福井、大阪、鳥取、長崎)

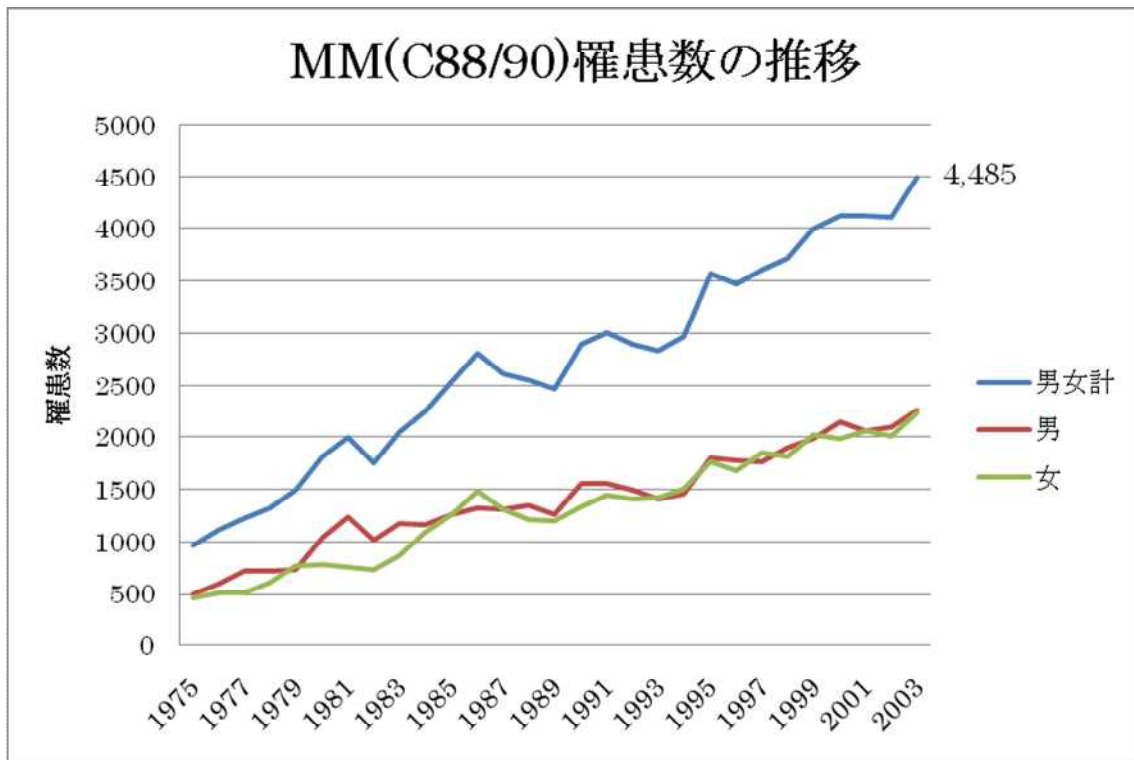
グラフ 1



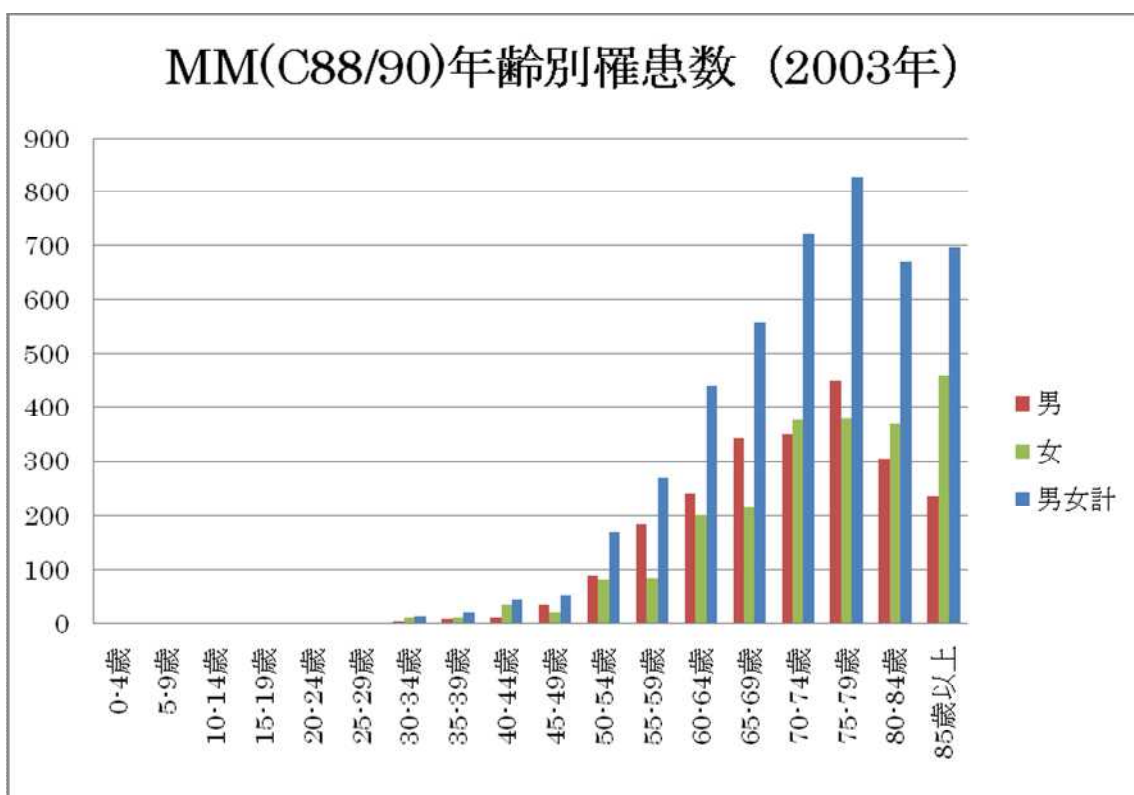
グラフ 2



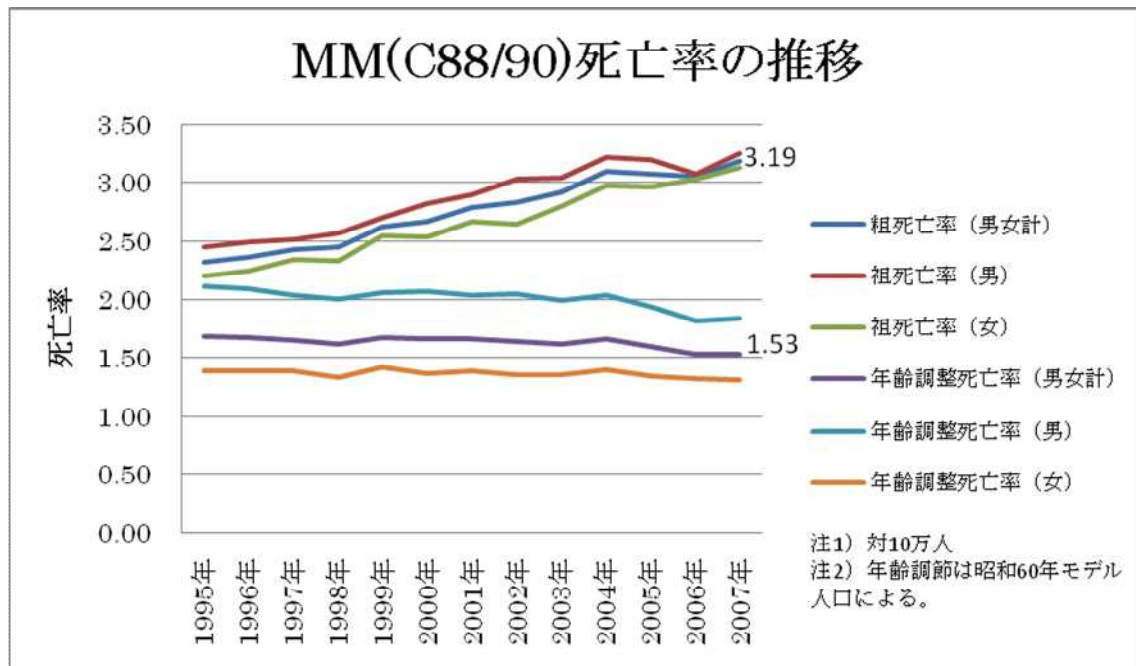
グラフ 3



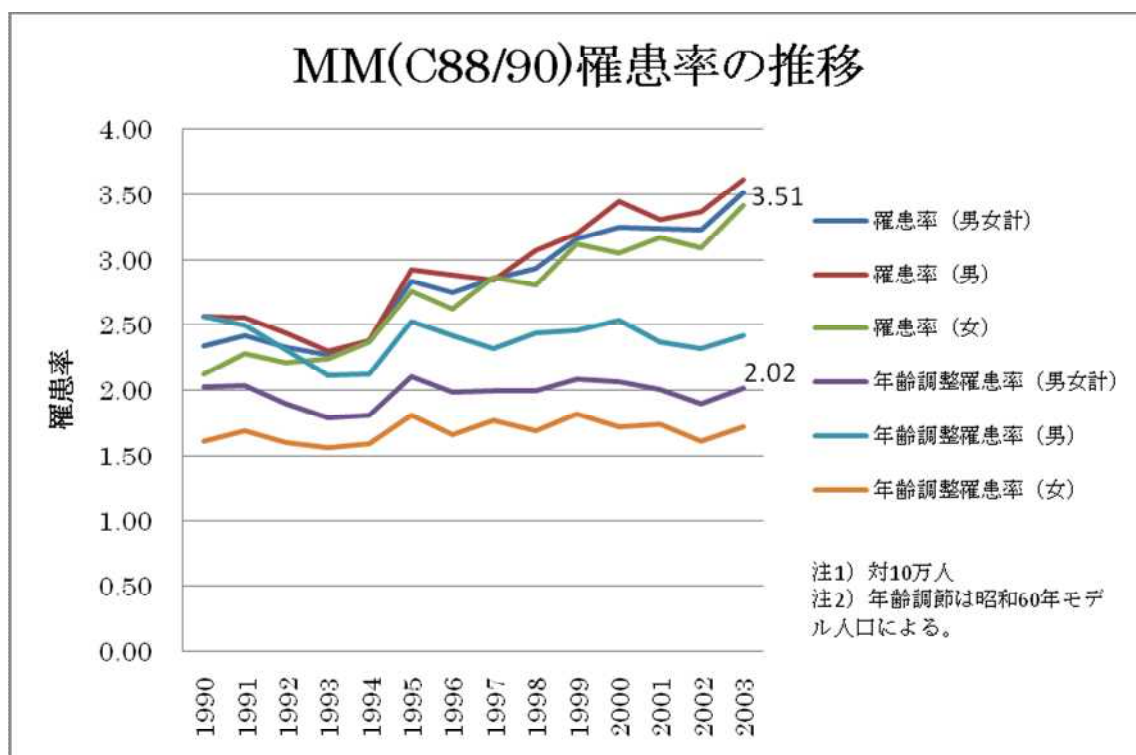
グラフ 4



グラフ 5



グラフ 6



参考) 年齢調整について

$$\text{年齢調整死亡(罹患)率} = \{ (1) \times (2) \} \div (3)$$

各年齢(年齢階級)の総和

(1) 観察集団の各年齢(年齢階級)の死亡(罹患)率

(2) 基準人口集団のその年齢(年齢階級)の人口

(3) 基準人口集団の総人口

年齢構成が著しく異なる人口集団の間での死亡(罹患)率や、特定の年齢層に偏在する死因別死亡(罹患)率などについて、その年齢構成の差を取り除き、そろえて比較する場合に用いる。これを標準化死亡(罹患)率という場合もある。基準人口としては昭和 60 年モデル人口(昭和 60 年人口をベースに作られた仮想人口モデル)を用いている。死因別死亡(罹患)率は、通常人口 100,000 当たりで表現する。

粗死亡(罹患)率が増加していたとしても、単に人口の高齢化のみが原因となっている可能性がある。年齢調整死亡(罹患)率を用いることにより、年齢構成の変化の影響を除いた形で年次間の死亡(罹患)率の比較が可能になる